

# 中國土地問題概梗と土地革命

中 村 吉 治

## 序 説

中華民國現今の革命を述べ、或は現段階の經濟機構を記せんとせば、先づ農業、農村、農民に關する充分なる知識と理解が無くては、革命を語り、現段階の經濟機構、或は政治、法律、文學、宗教等凡百の事情を知る事は出来なからう。それは何故であるかと云ふにそも、古來中國は農業立國主義の國にして、農業は各時代を通じて、主なる産業であり、現在に於ても亦同様である。中國全人口の百分の八〇は農民であり、輸出品の最大部門は農産物であり、國家の収入の最大部門であるところの農産物税額もその首位を占めており、中國全土の大部分は農村である。斯の如く中國は農業國であると云ふ事は、此等生産關係を基礎として構成せる文化にも多分に農業的色彩を有してゐる。なほ中國の社會組織をなす大家族制度も亦農業に制約されて成立維持されてゐる。それに中國社會進化の遲緩なる事も主として其の主要産業が保守的な農業であるにもとづく。斯の如き次第であるからして、農業關係を充分に研究せずして中國を知らうとする事は恰かも、基礎工事の不完全な上に大きなビルデングを建築する様なもので、下部構造の危険な建築足場に上部構造を組立てる様なもので、それは必然的に崩壊することは免がれないのである。故に中華民

國現狀を知らんとすれば如何にしても充分に下部構造である農業諸關係を知らなくてはならないのである。だから之等を忘却するに於ては、到底中國の各部門に亘る研究はなしとけられない事は、火を見るよりも明かな事實である。

猶、之の問題は獨り中國研究たるに止まらず、それが如何ばかり吾國々民生活に及ぼす影響大なるかは、彼の大戦當時に於ける武力的特殊條約、特殊權利の獲得に寧日なき××帝國主義の北方侵略の事實、なほ大戦後に於ける此等の特殊權利の死守と植民地化への積極政策は日々のブルジョア諸新聞に依つて充分推察され得る事である。それと共に中國全土に漫延せる中國革命運動がいかに吾國農民、プロレタリアートに重大なる關係を有してゐるか、猶此の運動が國際プロレタリア運動に且つ世界狀勢に如何なる影響を及ぼしつゝあるかをよく見なければならぬ。吾國農民、プロレタリアートは此を川向ふの火事として手を拱ねいて安閑として眺めてゐられやうか、あらゆる重壓を排して、國際帝國主義と軍閥、地主、土豪等と又之等と結ぶ支配階級層に日々彼等の團結を堅くして、彼等の勝利を圖いとらんとしてゐるかを、農民、プロレタリアートは目を開いて現段階に於ける中國を見なければならぬ。

以上の簡單なる前置の下に先づ土地問題を取つて本論に進まう。

## 土地問題 概梗

土地問題に就て今さら中國經濟史を翻くまでもないし又翻くに充分なる經濟史も残つてゐないが、今こゝに中國に於ける古來の土地に關する觀念を事實の例を以つて説明して見やう。

中國に於ても吾國にあつた如く中世紀頃に（例へば西紀六五三年唐代）左の如き法令が出てゐる。

「凡て土地を賣る事は、家族の所有たると個人の財産たるとに論なく、これを禁止す」(一)に、外線的に史的沿革を説明すれば、黃帝より周初期に到る千餘百年の間に自然的に築かれた井田法は、周末より秦初に到る間に自然的に即ち、時代の趨勢と共に自然崩壞の道をたどり、即ち戰國擾亂より秦朝にかけてまつた崩壞して、小作制度が起り封建的政治經濟への道をたどり、小作、地主もやがて前資本主義的經濟の農村侵入となつて來たのであるが、今其原因をほんのつまみ上げて記載すればそれは、一、經濟的、一、政治的、一、社會的に三大別出來る。それは經濟的には人口増加に依ると生産技術の進歩にともなう農村への商業資本の侵入と彼等の私有と兼併に依るもの、政治的原因とは春秋戰國を経て諸侯の版圖の増大と田の授與が確實でなかつた。それに依る昔日との思想的方向の轉換に依り私有制度へ變轉して、こゝに於て吾國に於けると同様家族制度を中心とせる生活様式となり、此の土地賣買禁止法を命じて家族の土地より放れる事を防いだ事は、吾國封建治下に於ける發令と同様なるものを見る、然しながら、如何に法律習慣が土地を家族の掌中に保持させ様としても、次第に迫り來る中國農民の破産と宗法を機軸とする生産制度の崩壞は進展し來たり、過去に於けるが如き制度は見られなくなつて來た。即ちそれは貨幣の發達に伴ふ市場關係が中國農村を支配し、農產品が商品化するにいたるや、土地の賣買は風俗習慣或は法律を忘却して、土地價格の流動化が次第に完成し、土地賣買は農業經濟上の最も重要な位置を占むるにいたりしかも之が普遍的になるや、積極的に農民經濟の破産を促したのである。

中國に於ける土地問題が貨幣の發達と世界經濟の組織に伍するにあたりて、其の土地關係は李立三の言へる如く、それは、封建的關係と資本主義的關係との混合的形式となり、即ち土地所有關係は資本主義的形式が優勢を占め、

——土地は金錢に依つて賣買される——搾取關係に於ては封建的形式が優勢を占め——物納地代、その他多くの非經濟的搾取——が優勢を示してゐる。<sup>(三)</sup>

こゝに注意しておかなくてはならない事は、中國の事情を特徴づけるために封建制度と云ふ表現を應用する事は、利よりも害が多かつたと信ずるものであるとヴァルガは云つてゐるし、又マルクス及びエンゲルスも此をアジアに關聯して、封建制度とは言はいなで通常「アジア的生產方法」と言つてゐる。ヴァルガは此の表現を「前資本主義的」と云ふ意味にとつてゐる。即ち前資本主義的性質は、ヨーロッパ封建制度と支那の社會構造とに共通である。しかしこの共通的なもの、内部には非常に大きな相違が存在してゐる。吾々はその最も重要なものを略記しようと思ふと云ふヴァルガの著述は、之が土地に於て最もよく書かれてゐる。今それを以下に少し書いてみよう。

即ち、ヨーロッパ封建制度の經濟的基礎は土地、支配制と農奴制とであつた。土地支配制は、王から領地として授けられて代々世襲される。しかし所得の高は、所領地の面積に依存したのではなく農奴の數に依存した。土地に對する支配は決定的ではなくて、勞働力に對する支配が決定的であつた。所領地の段別數が登録されたのではなくて「人間」の頭數が登録された。資本主義への轉換が初めて——人口の著しい増加と結びついて——勞働力と云ふ生產要素に對する土地と云ふ生產要素の優越を齎した。(イギリスプロシヤに於ける農民立退命令)<sup>(四)</sup>

## 大土地所有

中國では全く違ふ。封建制度の固有の經濟的基礎たる土地支配制は、曾て成立したとしても、既に昔の諸農業革命

に於て破壊されて了つてゐる。故に中國では大土地所有はあるが土地の支配制と云ふものはない、然して、全般的に見るに何等之等の大土地所有者は重大なる役割を演じてはおらない。「従つて、支那は小地主と小農の優勢な國と言ひ得る。この状態は一見して、革命的ブルジョアの任務は極めて簡單にかたずく様に見える。即ち封建制度は土地が大地主に屬する所での制度であるから、大地主が少なければ、従つて封建制度も存在しないと云ふ事になる。此の事情がラデツク（ソヴェートロシヤの支那經濟學者にして彼は支那には地主階級と云ふものは存在しないと云ふ、最近支那情勢の報告演説をなした）をして、早まつた結論を作り、忽ち支那に於ける封建制度を抹殺した」<sup>(五)</sup>

斯の如く、中國に於ける大地主は中國に於ては大なる役割は演じておらないしろ、其土地の所有は決してヴァルガの言へるほど、ヨーロッパ封建制度の大地主所有面積は少ではない、其の三四の例を上げて見ると、

「支那にはヨーロッパ式の模範的な地主階級はなくとも始終一種の支那式地主階級はあるのである。陳獨秀は、曾て一萬畝以上の大地主は、全支那に於ては、各省に十人内外があると。又アハリーンの計算に依れば支那には一萬畝（畝は吾國の二十坪程）以上の大地主は二百以上あり。彭述三に従へばかゝる種類の計算は現在に於ては眞實と認める事は出来ないが、湖南湖北兩省農民協會の報告に依れば、この二省には確かに大地主のある事がわかる。湖南省新化には、陳と云ふ一家があるが、約五十萬畝を有してゐると、其他聶雲臺も十餘萬畝を有し、河南の袁世凱家、安徽の李鴻章家等の如き」<sup>(六)</sup>。之である。

(一) 革命支那農村の實證的研究、田中忠夫著

(二) 日本經濟史、瀧本誠一博士著

(三) 支那に於ける最近の農業問題と農民運動中の支那革命と農民問題、産業労働調査所編譯

(四) 世界經濟年報、第三輯、ウアルガ著

(五) プハーリン、スターリン集十四卷、支那革命民族問題

(六) (一)と同じ

猶、中國には此の外、一種の集團的地主のある事を注意しなければならぬ。それは宗教盛なりし頃のヨーロッパ中世に於ける教會所有領土と同様な寺院領である。即ち祠產、廟產、寺產等のごときである。「廣東に於ては、この種の集團地主の土地が非常に擴大にして、東江には一つの明倫堂にして、土地十餘萬畝を有してゐるものがある。この土地は、勿論集團地主の共有であり、一個人の所有ではないが、この公共地を管理するものは、實際に於ては一個人の所有にあると同様」(一)のものである。此は中國に於ける一種特別な地主階級である。彼等、公共地と言へども其の地代、租税等は何等中央政府の干渉なく個人に於て勝手に取つてゐるのであつて、と言ふのは勿論主として、土豪劣紳、或は軍閥のたぐひである。然しながら其全面積の明かにされた統計はない様である。

(一) 革命支那農村の實證的研究

猶、軍閥、土豪、劣紳は日々其の土地を廣め様とし既に擴めつゝある事は事明の事であり此の半面には日々彼等の毒手に倒れて、娘を賣り、妻を手放し、息子を捨て、終には彼等自身をも奴隸にまで落して一家四散する貧農群を見落してはならないことは勿論であり、且つ彼等地主階級のあくなき搾取手段は年と共に農民を土匪或は兵士にかりたて、農村は衰弊し、従つて荒地は年々に増加する一方である。今荒地の最近の統計を見れば

民國三年 荒地

三五八、二三五、八六七畝

四年	同	四〇四、三六九、九四三畝
五年	同	三九〇、三六三、〇二一畝
六年	同	九二四、五八三、八九九畝
七年	同	八四八、九三五、七四八畝

之を見ても如何に中國農村の衰弊が大なるかをかり知る事が出來よう。  
(一)

(一) 支那革命論文集中の支那資産階級の發展、屈維宅著

以上で簡單ではあるが大土地所有者の農業經濟的方面より見たる彼等の土地所有に關する大體の概念を明かにしたつもりであるが、猶、彼等の政治的或は國際的乃至國內的地位及其行動は他日書く事にして、本稿の主要目的たる土地關係に關してはこれくらいにして、次ぎの中農或は小農即ち貧農それから雇農（日傭）等に關する土地關係を述べてゆこう。

### 中小農及貧農の土地所有に就て

今、吾國に於ても喧しく議論され、且つ多數の著書が公にされてゐるところの中小商工業者はどこへ行くと云ふ問題は、獨り中小商工業者のみならず中小農業者にも當然あてはまるべき問題である。そしてそれが必然的に中國中小農民階級をも同列に入らねばならぬ問題である。然しながら自分は今、何等生産關係を顧慮に入れずに一氣に此の稿に於ては土地關係に於てのみ彼等の現在の狀態を見てみようと思ふ。これはとりもなほさずリン・ホー・ヤンの言える

如く、「土地問題は、支那に於ける農業關係の中心問題となる」のであると云ふ事をもつてしても、今こゝで土地問題をあつかつて、中小農業者の説明をしても充分であらうと思ふのである。

中國の大土地所有者はヨーロッパ諸國の大土地所有者に比すれば相對的には其數は非常に少ない事は、すでに明らかにした通りであるが、中國に於ける大土地所有者の大部分はヨーロッパ諸國の中地上階級にあてはめれば、あてはまらない事はない。然らば中國に於ける中農とは如何なる程度の土地を所有してゐるものであるかと云ふに、今その具體的な問題として一九二六年中國々民黨土地問題委員會第三次擴大會議の討論の基礎となした調査表に依れば

畝		人數		占有地	
(一)	貧 農	一——一〇	百分の四四	百分の六	
(二)	中 農	一〇——三〇	百分の二四	百分の二三	
(三)	富 農	三〇——五〇	百分の一六	百分の一七	
(四)	小中地主	五〇——一〇〇	百分の九	百分の一九	
(五)	大地主	一〇〇以上	百分の五	百分の四三	

以上の表中で自分が中農と云ふのは此の表で示す小中地主と富農を現はすものであり、小農とは此の表の中農及び貧農を指すものである事を豫め注意しておきたい。

此の表にも現れてゐる通り中農の人數は百分の二五であり、占有面積は百分の三六を有してゐる。これは大地主の人數百分の五に對すると、土地占有面積百分の四三に比すれば格段の相違のある事は明らかにわかる。然して此の統



計の比較的古い事をもつてして、猶現今の如き貨幣の流通大いに發展し來たり、國際資本主義の滔々として中國の農村に侵入し、やがてそれは市場關係を生んで農産物は商品化するにいたつた。そして彼等は貨幣の必要に迫まれ、わすかの貨幣に依つて多くの農産物と交換さるゝにゐると同時に、各多々の釐金を徴收されて手元に入るはわずかの貨幣を見るにすぎない。其上租税を取られて猶、軍事強制徴税を奪取せられ、軍閥のたへざる戰爭は一年中汗と血で作られた田畑を一朝にして見る影もなきまでに踏みじられ、彼等はたゞそれに對して手をこまねて見てゐるしか何等の方法もなく、又一方に於ては土匪の絶間ない襲來は、土豪、劣紳の搾取と相俟つて中農をして日々に小農、小作人へと没落させ、大地主はその弱腰を目當てに、割の安い値段でどしどし土地を買取つて大土地所有者はいよいよ多くの土地を占有するにいたる。即ち一方に於ては中農は小農へと没落し又小農は前と同じ過程をたどつて農業勞働者即ち小作人へと没落の道程を行くものである。そして大地主への過程速度は緩やかにして、小作人への没落は急速度に進展して行くのである。今、古いが例としてこゝに一つの統計を以て表はせば、

江蘇省崑山縣

	一九〇五年	一九二四年
自作農	二六、〇%	八、三
半自作農	一六、六	一四、一
小作農	五七、四	七七、六
同、南通縣		

自作農	二〇、二	一五、八	一三、〇
半自作農	二二、九	二二、七	二二、六
小作農	五六、九	六一、五	六四、四

安徽省宿縣

自作農	五九、五	四二、五	四四、〇
半自作農	二二、六	三〇、六	三〇、五
小作農	一七、九	三六、九	二五、五

以上の統計に依つて其の真相の何分なりとも知り得る事が出来るであらう。此れが比較的古い統計であるために、これより押して現在に於ては中國全土に於ていかばかり中農は小農へ小農は小作人へと没落してゐるか知れない。それは前述せる如く、その没落速度は年々加速度的にいきよよく増してゆくから、そして、彼等は漸次その社會層の低下を示しつゝ、更に如何なる方向に進みつゝあるかと云ふと、或は終に失業化して食はんが爲に無賴漢、土匪、或は兵士となりて彼等の農村を離れ、都市に流出し、一方に於ては農村ブルジョアジを生むと同時に、他方貧農、農業労働者の大集團をプロレタリアートの列伍に引き落して行く。斯くて中國に於ては、廣大なる産業豫備軍が、迅速に擴張されてゐる。

- (一) 支那に於ける最近の農業問題と農民運動中支那革命と農業問題、リン・ホー・ヤン著産業労働調査所編譯
- (二) 同所編譯の資料第一

(三) 革命支那農村の實證的研究

(四) 雜誌支那二十一卷九號

### 農業勞働者(貧農)の生活狀態

然らば全然土地を有せざる者は農村に於ては如何なる方法に依つて經濟生活を營んでゐるか云ふに、彼等は一部份は農奴經濟を營みロシアの帝政前資本主義的經營形態に於ける農民自身のインヴェンタールに依つて耕作すると同様に、中國農奴的經濟を營む彼等も亦彼等自身の農具を使用して、自己は生きるだけの糧を與へられて他は全部地主或は軍閥、商人、官吏が奪取してしまふのであるが、之は中國に於てはヨーロッパ各國或は前資本主義的經濟時代のロシアに於ける様に多數ではなかつた。その理由の一つとしては、彼等勞働に従事する者は、一生懸命の努力は常に報ひられずに、いつもたゞ單に生を保ちうるだけの最少限度の糧しか與へられない。それ故に彼等は出來得るかぎりの勞働をおしむにいたり、地主が地代として貸與土地より得る收入より少ないが故に地主としてはあまり多くはのぞんでゐない様であるが、然し數の上から言つて之等は決して少なくはない事は勿論である。之等は主として十三世紀頃に初まつたカバールと云ふ一種の契約取極證文に依る農奴規約の如く、債權者は利子として一時的或は永久的に債務者の人格を處分した其の者達に依つて農奴の狀態に成れる者が多い様である。彼等に對する、報酬其他規約等は、本問題とは離れてゐるからその一二の例のみを上げるに止めて他日にゆずるとして、「湖南全省七十五縣を通じて所謂「大加一」として月一割が最も平穩である。場所に依ては月三割、最も甚しい例は、「孤老錢」とて毎月算

術級數的にて、増加して行くのがある。益陽では五月に借りた米一石に對して八月の收穫期に二石で返へす。臨湘では一元の日歩十仙、且つ十日毎に計算して複利をとるのであるが、これに依ると一元の元金は一ヶ月の後には約八元となる。<sup>(三)</sup>

抵當に關する極端な例では、羅立（廣東省）に於ける妻女の抵當であらう。（然しこれは何等極端なる例ではなくて中國に於てはごく普通の例である）この場合、抵當中妻女が懷孕し、且つ期限内に元金が支拂はれた時には、子供だけは債主が引き取る。<sup>(四)</sup>

江蘇省の或る地方で調査したところに依れば、三十畝以下の農家（中農以下）は借金を免れ難い。「潯縣では八割五分の農家が負債者であり、嚴家圩では五割四分、淳化、鎮估では、六割三分がそうである。そしてこの割合だと全國で約二億二千八百六十二萬人が高利貸の壓迫下にあるだらうと見積られてゐる。<sup>(五)</sup>

貧農達は彼等の有するわずかな農地からの收穫で一家を保つに充分であるため、大土地所有者より、土地を借りうけて耕作をなし、又小農或は中農の大地主に借金の手當として中國に於ては（地主は常に高利貸である）取り上げられた土地を今度はその儘、借地として借受けて、大なる地代を支拂ひながら、其の土地を耕作してゐる。彼等の地主に支拂ふ諸費（地代其他）は實に全收入の七〇％に及んでゐる。之實に中國農業の發展に大なる障礙を來たせる一大原因である。彼等は前述せる如く、其の小作人に對する時は、實に封建的搾取を持つて出來得るかぎりの汗血をしばり取つてゐるのである。然るが故に中國に於て大農場經營が發達せず、大工業が發展しない最も重要な要素的事實である。何故なれば、彼等地主は農業労働者を雇ひ入れて大農場經營をやるよりも、土地を分割してそれを貸して、其

の地代を得る方が資本は不用である上に利益は數倍以上にも及ぶからであり、又工場を立て、勞動者を使用して生産を行ふよりも以上に利益であるために、即ち中國農業は其生産技術はなほ中世紀的なる進歩せざる耕作方法なるが其雇農の餘剩價值の搾取に依る利潤は極めて少ないから彼等は貨幣を得れば全て之を土地購入に當て、自己の土地の少しでも多からん事を望むのである。

(一) 經濟學教程、レーニン著 河野重弘譯

インヴェンタールとは、農業上の財産或は工業上の企業附屬物であつて、經營を行ふに必要なもの、即ち、經營、企業、施設等が領有してゐるところの事物、價值の目錄である。この場合具體的に言へば一切の家具、農具、家畜等である。

(二) 同上

農奴的取り扱ひ、或ひは奴隸狀態を云ふ。前代(カバールは十三世紀の終りより發生した)のロシヤに於て、契約取り極め(カバール證文)が許された。それに依て、債權者は利子の代りとして一時的或は永久に債務者の人格を處分する權利を得た。即ち債務者に對する期限付きのカバール權を得たのである。

(三) 鈴江言一著、支那革命の階級對立

(四) 同上

(五) 同上

## 土地革命

從來の農民運動は軍閥、土匪に對する農村自治の運動にして、その團體も北方紅槍會、或は黑槍會、大刀會、小刀會等其他種々な秘密團體であつて、此等總ては、一つの宗教的色彩を以て形成せられた團體であつて之等は、往々農村ブルジョアジーの支配下にあり、その任務は農村防衛と軍閥に對する軍事強制徵稅の反對及び租稅の減徴等に關する反對的團體にして未だ、農村ブルジョアジーに對する農民大衆としての農業根本要素たる土地鬭争にまで延びてゐないのみか、かへつて、之等の團體は地主の御用團體として、中小農に對抗して彼等を苦しめてゐた。例へば一例として、「廣東省の普寧縣に於て『方』と云ふ土豪がいたが、彼を保護する無賴漢共は主人をかさにきて、村内を横行し、婦女を戲弄し、甚しきにいたつては人家に侵入して婦女を姦淫し、農民にして之に反抗すれば大なる禍を招來するから黙してゐると云ふ様な有様である。」

然しながら最近數年の經驗の中に、即ち、一九二五年の五・三〇事件などは、中國には殆んど農民大衆として鬭争の一切が封建的束縛に反對するものであり、一切の中世紀的搾取に反對するための組織は存在してゐなかつたのである。然しながらそれより溯る事五年前の一九二〇年にすでに中國に於ても中國××黨が存在してゐたのであるが、植民地に於ける農民運動の重要性を知りながら、後に述ぶるが如く、まだほとんど具體的に農民問題、殊に土地問題に關してはそれほど問題とはしてゐなかつた。然かるに農民としては、鬭争の主要目的は地主の封建的搾取と支配的地位とを顛覆せんとするものであり、農村の社會制度の完全なる民主主義化を力爭するものである。斯る鬭争は悉く農民が土地を要求してゐる事を表示してゐる。即ち土地は農民に對して最も主要なる生産資料であり、生活の源泉であるから。故に、五・三〇事件以前に於ては、わずかに二三の地方で農民が自發的に團結して農民自衛團を組織し、

土匪を防禦し、軍閥の苛税に對して反抗を試みた位のものであつて、北伐の開始までの時期に於ける農民運動はまだ土地革命の問題にまで進んでゐるなかつた。

自然發生的に各省で起る農民の一撥、暴動は次第に農民大衆を階級的に自覺せしめ、階級意識が鮮明になつて來た。然かるにこれまでの無指導な無組織な百姓一撥、農民暴動に統一的組織的光明をもたらし來たものがある。それは一九二〇年八月に社會主義思想を信仰する南京大學の急進分子なる陳獨秀以下八名の青年に依つて、上海に上海社會主義團體が組織され、次いで北京、廣東、長沙等にも同様なる團體が出來、それ等はやがて非共產主義者を排除して、一九二五年二月第三次全國大會を廣東に招集して、其の時「中國××主義青年團」と改稱して、こゝに中國全農民大衆に對する指導機關としての役割を演じ初めたのである。

「一九二六——一九二七年の農民革命の際の諸經驗は、次のことを示した、農民の間で最も人心をつかんだスローガンは、平等的土地分配のスローガンである事。支那農民の最も壓迫された部分——小作人——の間では、土地分配の要求は屢々「平等的小作權」の要求として定式化された（湖南省）。」

その他の地方、例へば極めて小さな零細土地所有者の巨大なる層の存在する江蘇に於ては「平等的小作地」の要求は——それは土地所有者から略奪した土地を獨占的に小作人が使用するための交附（平等化を基礎とする）の要求と理解され——此の零細農の反對を招き、彼等はこれに對し一般的平等化のスローガンを並べた。

然かるに平等的土地分配のスローガンが、農民の間（主として小作農民と土地なく失業した農民の間）に非常に人氣を得たにもかゝらず、このスローガンを貫徹する事は、農民にとり一般的に不成功であつた。農村に於て自作農

が支配的である所・たとへば江西に於ては（萬安に於けるソヴェート權力の經驗）土地の新分配の要求は農民大衆の間にいさゝかの支持も見出し得なかつたのである。<sup>(三)</sup>がそれに就て次にいさゝか記述しなければならぬ。

それは「中國に於ける農業關係の錯雜、國內の個々の地方に於ける農業關係の差異、並に全農業機構に於ける一聯の本質的特殊性は——小農的土地所有の支配と大土地所有のわずかな發展の如き——中國××黨に土地の平等的新分配のスローガンに特別な注意を拂ふ様強制しなければならぬ。即ちそれは小ブルジョアの性質を全然排除して眞にマルクス主義的なる新分配に依り前述の如き小ブルジョアの行動を絶対に排撃しなければならぬ。<sup>(四)</sup>之に就て、レーニンは、ナロードニキの土地改革の計畫を取扱つた彼の論文の一つに於て「一般平等土地使用」のスローガンを次の如く批判した。<sup>(五)</sup>

「小ブルジョア社會主義は小地主の一つの夢である。小地主はそれに依つてあたかも富豪と貧乏人間の差別を破壊し得るかの如く夢想してゐる。小ブルジョア社會主義は、すべての人々は小地主として「平等となり」て、最早富豪も貧乏人もなくなると信じてゐる。小ブルジョア社會主義は、一般的平等土地使用に就て法律案を書いてゐる。併しながら實際に於て、小地主が爲さんと欲した様な貧困と不幸の排除は出来るものではない。此の世界に貨幣と資本が存在する限り平等の土地使用はあり得ない。市場經濟が成立し、貨幣の力及資本の力が自らを保持する限り、此の世界の如何なる法律も不平等と搾取を排除する事は出来ない。唯すべての土地、工場、道具の所有權を労働階級に××、××、××、××、計畫的經濟を營むことのみが、あらゆる搾取に終結を××しめ得るのである。プロレタリアの社會主義（マルクス主義）はかくして「資本主義の下に於ける小經營の平等化」の可能性に關する小ブルジョア社會主義の根據な



き希望の假面をひきむいたのである。」

なほ、レーニンは「プロレタリア革命と背教者カウツキー」の中で此の農民のスローガン——土地の平等的新分配——に對するプロレタリアートの態度を特徴づけてゐる。

「此の土地社會化の法律の遂行に際して——此の法律の「魂」は平等なる土地使用のスローガンである——ボルシエビキは全く正確に斷乎として次の如く宣言した。それは吾々の思想ではない。吾々はかゝるスローガンに同意するものではない。だが吾々は、これを遂行するのは吾々の義務である。何となればそれは農民の絶對多數の要求に關するものであるから、」と言ふ等の如きマルクス主義の立脚點よりせい細にそのスローガンに従つて、土地革命への進出をしなければならぬ中國××黨指導部中に於て、なほ日和見主義的な輩の混成に依り、後述する如く實に見苦しい、はがゆい敗北的結果を見なければならなかつたのである。

この邊で一應、中國土地革命に就ての經過を記しておこう。

「中國農民の小さくとも四分の三は、土地を有せぬ農民と僅かに之を有する農民とである。それは歴史上地主が兼併せる結果である。猶、土地兼併の過程の外、同時に土地は非農業階級へ「貨幣資本家」の手中に集中されるところの過程である。農民が所有する土地は日一日と減少し、之がために農業生産者（自ら耕作する人）、極めて廣大なる農民大衆は、日一日とより多く地主の束縛を受けてゐる。斯の如き情形の下では、支那の土地關係の根本問題は、即ち土地所有制度の問題である。」<sup>(六)</sup>

こゝに於て少しく注意しなければならないのは、ヨーロッパ諸國に行はれたところの土地革命闘争とは少しく其意

味を異にしてゐると云ふ事は上述したが、くりかへして言つておく必要がある。

即ちヨーロッパ諸國の多くの土地闘争の意義は、小ブルジョアの土地私有と、中世紀的地主との間の矛盾であるが、中國の土地闘争はそれと異なり、多數の全く土地を持たぬもの及び僅かに其を有する農民と、土地を獨占する階級との間の矛盾である。之は勿論全農民プロレタリア大衆の聲である。が、之を指導部たる中國××主義青年團は、はきちがへない様によくレーニンが言つてゐる言葉を體得してかゝらねばならなかつたのであるが、之の前に言つた様に日和見主義なる分子の混成に依る初期××黨は敗北結果をみちびいたのである。

中國××主義青年團はかの國民黨の北伐の時にあたりて、最もその活躍の目覺しいものを見たのである。がそれまでにひるがへて、斯く目覺しく活躍出來得たもとをたずねれば孫文が國民革命を遂行する上に於て、即ち後來に於ては孫文の××的行動はブルジョア民主主義的革命であつて、それは單に「三民主義」を看板とした一つの小さなブルジョア政客團體でしかなく、應々にして軍閥の利用に供する以外に何等働きもなかつたのであるが、一九二三年孫文はソヴェート同盟の使者ヨツフェと會見し、國民黨に澎湃として起つて來た、急進小ブルジョア及びプロレタリア大衆の反動國主義運動の上に組織變遷の必要を感じ「一九二三年一月、彼は上海に於て聯露（ソヴェートロシアとの提携）容共（中國××黨への加入）の二大政策を宣言した。同年秋にはボロヂンほかソヴェート同盟から顧問たちが廣東に來た。そして一九二四年一月には、國民黨の第一回全國大會が開かれ、黨の再組織と新政綱が決定された」様にそれはソヴェート同盟の力が與つて大をなし、且つ國民プロレタリアート及び小ブルジョア急進分子の支持に依り、こゝに國民黨（ブルジョア民主主義）を指導下に引き入れて北伐に依り中國プロレタリア政權樹立統

一運動に入つたのである。即ちこの北伐過程に於て、全國の勞働運動は、極めて著しい積極的な發展段階をたどつたのである。即ち、恐らく、この農民大衆の絶大なる支持が無かつたならば北伐完成はほとんど夢想だに出来なかつたらう事は斷言出來得る。彼等農民大衆は國民黨（勿論反動前の事）吾等の味方として迎へ、廣東を初め、湖南、湖北、江西の諸省の農民協會は學生聯合會及び工人會の人々と共に自發的に、或は又中國××主義青年團の指導の下に土豪劣紳、大地主階級に對する反抗運動を勃發させて行つた。就中、北伐軍の兩湖に入るや、俄然、農民運動は急激なる發展を見、農民は土豪劣紳反抗から土地問題解決を要求するにいたり、こゝに農民××運動に土地××への進展が具體的に表面に浮び出て來たのである。然るに當時に於ける××主義青年團は前述の如く猶、日和見主義者の清算を試みなかつた以前にあり、土地問題に關しては何等の具體的對策もなく、ひたすら黨内々部の決裂を考慮して、彼等は所謂土地問題解決に天下り式方法に依つて、直接に農民の自發的土地沒收鬭爭の指導に當らず、國民黨右翼、中間日和見團體の土地法分布に依つて、土地問題を解決し様と云ふ希望を有してゐた。

即ち其當時、一九二七年五月の中國××黨第五回大會に於て具體的分析の上に農業綱領を決定した。そのテーゼは

(一) 地方領及び寺領の××之が耕作民へ分割

(二) 小作地の土地××と之が農民へ分割

(三) 小地主に所屬する土地は決して××してはならぬ。賃借料はその土地の地祖額迄低減されなければならぬ。

而してその地租は小作者が沒收地の耕作に當り支拂ふものとす。

これに依れば××黨内部に於て、如何に日和見主義者共が横溢してゐるかが察しられやう。即ち、「若し、小地主の

土地××が禁ぜられるならば、大地主の下で小作してゐるものは解放されるが、小地主の土地を借りてゐる小作人は解放されない事になる。しかも、支那に於ては、地主は多く小地主であるから、黨はこの階級闘争を避けることに依つて、壓倒的に多數を占める小作人を動員し組織する事が出来ぬ事になる。<sup>(九)</sup>

かくして黨中央部の幹部連は、國民黨右翼、中間派と意見相接する様な日和見主義に陥つた。勿論、ソヴェート同盟より派遣されてきた、ボロージンやロイも、各々其の指導的理論は異にしてゐるとは言へ、同様に日和見主義的誤謬に陥つてゐたのである。即ち、彼等は國民黨左翼、汪兆銘等との決裂を恐れ、大衆的農民闘争を組織し、××的勢力の強度化に依つて反革命を打ち倒すことを夢にも考へてゐなかつたのである。

斯の如く中國××黨指導部は大衆の力を信頼せずに、反動的色彩をふくむ行動に出でた爲、北伐開始より武漢政府反動までの期に於ける無産階級と資産階級との革命指導の争奪の最重要なる時期に於て常に××黨の讓歩的な、優柔不斷な態度は進んで彼の好機に土地××を指導し得なかつた爲、農民大衆を獲得する事が出来なかつた事は、中國土地××闘争に於て返へすがへすも残念な事である。

然して南京、武漢相繼で反動化し、ブルジョア、帝國主義諸國の犬、蔣介石一派の作動に依り、中山艦事件をきつかけ、に國民黨内有能急進分子を一掃し、こゝに於て中國××黨内部は大いに力をそがれるに至たり、こゝに中國資産階級革命は一まず一段落を遂げるに至つた。

それではこゝに改めて、見なければならぬのは、中國××黨は眞の××的行動を取つてゐたものは一人もないかと云ふに、それは單に幹部、所謂ダラ幹の日和見主義的傾向は充分に明白にされた。そうだからと云つて、中國××

黨が××的活動力を失つてしまつたと云ふ事は非常な間違であつて、多くの所謂下級黨員大衆は、黨指導部の日和見主義に反對し、その不滿は一九二七年六月に催した總工會第四回大會の代表の演説にはつきり表はされた。そして多くの××黨員は早くから農民運動に参加し、廣東の農民運動の如き、指導者の大部分は彼等であり、又武漢時代を通じての土地××鬭争の發展への先頭は常に××黨中央部の所謂下級黨員の獻身的なる鬭争の實踐に依つて黨指導部の日和見主義的誤謬を清算した。

其後一九二七年八月七日、中國××に對し熱心なる注意と指導にあたつてゐたコムメンテルン執行委員會は、ロイヤ・ボロージンの日和見主義に陥つた指導者を呼び戻して、新に××的指導部員を派遣し、緊急擴大會議を召集した、これ普通に八、七議會と稱せらるるものにして、その内容については一九二八年に開催された中國××黨第六回大會に於て云つてゐる。即ち一言にして言へば「八、七會議はボルシェビキ化の開始である」と。此の緊急會議に依つて此迄の誤謬を批判、討檢して、過去の日和見主義的誤謬を清算した。

それから一九二八年七月末から九月にかけて、コムメンテルン第六回世界大會が開かれコムメンテルンの綱領や「第三期」についての決定などを初め、世界の勞働者農、被壓迫階級のために無限に重要な指導にあたへたと、同様、同時期に於て、しかもコムメンテルンの直接の指導の下に中國××黨第六回大會が開かれ、忘れる事の出来ない土地××農民××への指導綱領を決議した。今こゝにその決議事項の條文の骨組だけでも記述しておきたいのであるが、限られた紙數ではとても記述し得られないから之を記することは止めておく。そしてこの綱領は、何よりも先づ、從來の日和見主義的誤謬の基礎を一掃して、凡て正確なるマルキシズムの立場をもつて一貫されてゐる事は確實に見うけら

れる。

右の新たな正確なマルキシズムの立場より根本政策を建てなほし、土地革命の指導に當つたのである。即ち農民を煽動し、地主階級の土地を奪取し、湖南、湖北、江西、廣東の暴動を決行するに至つた。然しながら其の中堅分子の多くは白色テロルに依つて失ふに至つたのであるが、如何に外帝國主義の直接的攻撃や、内軍閥の鋭い慘忍極まる白色テロルに依つても、中國農民プロレタリアートの不屈の闘争は新たに農村貧農青年團體や都市労働青年に依り眞のインテリ、小ブルなき幹部を組織して各省、各縣に於ける一撥暴動を指揮しつゝあるが、なにしろ××闘争の實體に日の浅い彼等は時としては暴動と闘争とを混同し、盲動主義的錯誤に陥り易い傾向があつたが、ロシア革命拾參年記念日（昨民國拾九年）拾壹月七日、擴大會議が招集され、今後「特に青年労働下層大衆の運動に注意する」と云ふ方針を定めて中國××黨の進展をはかり、「東洋的に」野蠻極まる白色テロルに襲れながら大衆は次第に闘争にかり立てられ、幾多の自然發生的な蜂起をさへ捲き起し、しかも、過去に於ける日和見主義的な誤謬に依つて、一九二七年後半期の敗北を招いた農民プロレタリアートの指導部は、その手痛い經驗の中からレーニンの教訓を引出し、嚴格なる自己批判を行ひつゝ、その組織をボルシェヴィシキ化し、堅牢なる再建に依り、左翼化しつゝある大衆をどしどし集招して、プロレタリア××の第一線たる土地××の完成のためにマルクス、レーニンの農民のスローガン「土地に就ての權利の平等」「平等的小作地の權利」の批判を體得して、來るべき全國的農民プロレタリアの軍、赤衛軍團の總攻撃を指導して、世界被壓迫大衆開放のためにその先鞭を取る事は又同時此の土地××の勝利が中國農民労働者政權樹立への完全なる順歩である事は言を俟つまでもない。中國農民大衆は飢餓に迫れながら戦つてゐる。そして革命

は進展してゐる、灼熱海棠の如き中國農民大衆の運動の進展こそ一九三一年に於ける世界被壓迫階級の上にもたらさる、史的變革の最大なるものであらう。

(一) 革命支那農村の實證的研究

(二) 革命支那最近に於ける農民運動と農業問題

(三) 同

(四) 同

(五) 同

(六) 同

(七) 支那大革命

(八) 同

(九) 同

(十) 同

(十一) 革命支那農村の實證的研究